

## は し が き

言語センター長 尾形 弘人

『言語センター広報』第27号をお届けいたします。平成28年4月に始まる第三期中期計画期間も、まもなく折り返し地点を迎えようとしています。そういった中、本学は、昨年5月、帯広畜産大学、北見工業大学との法人統合を目指すことを発表しました。商学、農学、工学の単科大学がそれぞれの強みを持ち寄って、北海道経済の発展に寄与することを目的とした統合です。具体的なビジョンはまだまだですが、国際的視点から地域・地元を考える「グローバル人材」を育てる本学の使命に変わりはなく、言語センターもこれまでと同様、深い異文化理解の基となる高度で実践的な外国語教育に努めていく所存です。

さて、平成30年度の報告ですが、新学期を迎えるにあたり、日本語の高野寿子教授が特任教授に就任いたしました。また9月には、英文学担当教員として、W.B.イェイツがご専門の高橋優季准教授が赴任しました。他方、英語系の山本久雄特任教授が、本年度末をもって退職なさいます。昭和61年の赴任以来、先生には長年にわたって英語教育を支えていただき、また、ご専門の言語学の講義により、英語教員の養成にもご尽力をいただきました。先生の数々のご貢献に心より感謝申し上げます。

英語教員養成といえ、本年度行われた教職免許状課程認定において、英語教職免許が、無事、再認可される運びとなりました。当初は「現行の教育プログラムでは認定は難しい」とされていたのですが、履修上の区分として商学科に「英語専修」を新設することにより、どうにか窮地を脱することができました。自学科の教育体系に手を加えることをお認め頂いた商学科の皆様には、感謝の言葉の申し上げようもございません。商学部でありながら英語の教職を有してきた本学の伝統を守るべく、これからも優れた英語教員を育成してまいります。

授業改善のためのFD活動では、基準に照らして不適正な成績評価の割合を過去5年にわたって遡り、言語別、個人別の結果を、非常勤を含むすべての教員に通知しました。また、ここ数年、2年次の外国語選択では、英語以外を主たる言語とする学生が7割を超えていますが、この不自然な状況の原因を探るため、学年末に学生アンケート調査を実施しました。

次にe-learningによるTOEIC対策授業ですが、現在、本学は、1年生の平均点の30点向上と、730点以上の高得点者の倍増（20名以上）を目標としています。前者は日本企業が大卒生に求める560点を初年次で目指すもので、後者は海外ビジネスで通用するとされるレベルです。平成29年度の結果は、平均が561点で、730点以上獲得者は34名でした。計画2年目にして目標を達成した形ですが、他方、最低限必要と定めた450点に達していない学生も15%ほどいます。否応なしにグローバル社会へと巣立つ彼らには、大いなる奮起を促したいところです。

Blended Learning（online 学習と対面授業の融合）については、ジョン・サーマン教員を中心とする4年間の実績が文科省に評価され、本年度4月より、プロジェクト予算が基幹経費化されました。これを機に、BLは従来の五本柱（以下の①から⑤）はそのままに、ショーン・クランキー教員を総合責任者とする新たな体制で臨むこととし、以下の成果が得られました。

①「デジタルコンテンツ」では、教員による教材作成（デジタル内）の他、学生がスタジオ機能を活用して様々な課題（デジタル外）に挑戦しました。例えば、スペイン語の自己紹介、

英語の小樽紹介、動画を用いた法学の立論、留学生の日本語スピーチ、短期海外研修の事前・事後学習などで、今後も創意工夫に富む主体的な取り組みが期待されます。

②「双方向通信授業」については、ダニエラ・カルヤヌ教員の授業参加学生5名が、ルーマニアの通信相手校（トランシルバニア大学、ブラショフ校）が主催するサマースクールに参加しました。事前の学習にあたっては、商大生とブラショフの学生が、それぞれ自分のキャンパスを英語で紹介する動画を作成し、交流を深めました。また、サーマン教員はオタゴ大学（ニュージーランド）と計8回、中津川雅宣教員（グローバル教育部門）は米国ノースジョージア大学と計6回の双方向通信授業を実施しました。

③「異文化ビジネス教育」としては、クランキー教員のEnglish Lecture Series（ゲストによる英語での講演）を計7回開催しました。ロックシンガーにしてハリーポッターにも出演したRichard Strange氏や、『The Jubilee Cycle』を著したSF作家Eli. K. P. William氏の他、アイヌ民族の問題や知られざる沖縄の現実など、いずれも興味深い講演でした。また、10月13日、14日には、第12回「Japan Writers Conference in Otaru」がシリーズの一環として開催され、120人以上の英語ライターが本学に集い、小説、詩、ジャーナリズム、翻訳、academic writing等々、「書くこと」の諸相について40近い発表がありました。

④「外国語を通じた地域貢献」については、佐々木香織教員のゼミ生16名が、倶知安、ニセコに住む外国人の健康に役立てるため、昨年度の医療マップを発展させた英語ウェブページを作成しました。また、中国語学習者20名が、嘉瀬達男教員、章天明教員の指導の下、「小樽文学館の中国語化プロジェクト」として中国語パンフレットの詳細版を制作中です。同じく李賢峻教員も学生18名とともに「韓国語による小樽文学館案内パンフレット作製プロジェクト」に着手しました。いずれも学んだ外国語を地元で役立てる、真に「グローバル」な実践といえます。

最後に⑤「小中高大全般における英語BLの展開」ですが、昨年度のニーズ調査の結果を受け、本学と小樽市との間で「初等教育英語連携協議会」を発足させました。これは近く正式教科となる小学校英語教育への貢献を目的とし、担当のマーク・ホルスト教員が実地で小学校の授業を参観した他、教授法に関するワークショップ（8/30-9/1, 1/16）を開催し、30名ほどの熱心な教諭の方々に参加して頂きました。また、本年度より英語インターンシップ（小学校の英語授業の補助）も新設され、英語教員を目指す学生4名が参加し、こちらも小樽市の期待は大きいようです。

- 「外国人による集中外国語講座」担当講師：リン・アイビー講師（英会話、小樽協会病院特別英会話）／呉秀娟講師（中国語、前・後期）／A・スベヴァコフスキー講師（ロシア語）／韓然善講師（韓国語、前・後期）
- 夜間主「通常授業公開講座」開講科目：ドイツ語／フランス語／中国語／外国文学／ことばと文化
- English Lecture Series 講師：Eli K.P.William（SF作家、翻訳家）／Tacciana Cagielink-Okicu（北海道大学）／Jon Mitchell（沖縄タイムズ記者）／Erv Karwelis（Idol Records 社長）／石原真衣（北海道大学）／Richard Strange（歌手、俳優）
- オープンキャンパス「模擬講義」：マーク・ホルスト教員、「English education and the world of work」／李賢峻教員、「異文化コミュニケーションとしての韓国語の楽しみ」、本学キャンパス、8月7日
- 高大連携（出前授業）：佐々木香織教員、「大学が外国語教育に力を入れている理由」、室蘭清水丘高校、7月13日
- 英語教員免許状更新講座：ジョン・サーマン教員、ショーン・クランキー教員、「英語による教授法（TETE）ー コミュニカティブな授業のための教材作成とヒント」、小樽商科大学札幌サテライト、7月28日
- 第31回「教職研究会」：本学を卒業した中高教諭の研究会。マーク・ホルスト教員および英語インターンシップ参加学生2名が小学校英語プロジェクト活動報告。本学BL2教室、12月8日
- 第67回「東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会」出席：佐々木香織教員、全体テーマ「転換期における大学改革と今後の共通教育の挑戦」、室蘭工業大学、8月23日、24日